

METTS NEWSLETTER

教職課程センター・地域学校教育センター

特集 教員採用試験、いよいよ本番！

7月6日、東京都、千葉県、神奈川県などで 2026 年度採用予定の教員採用選考の一次試験が行われました。すでに実施された茨城県を含め、本学からは、35 人(3年生前倒し選考を含む)の学生が受験しました。

教職課程センター(METTS)では、教員採用選考にチャレンジするすべての学生を応援するとともに、今後行われる二次試験に向けて面接練習や実技試験対策等を行い、皆さんの夢の実現に向け、全力でサポートします。

2025 夏の挑戦 一次試験を終えて ～受験生の感想より～

- 試験が始まるまでは、「大丈夫かな・・・」と不安でいっぱいでした。しかし、自分が今まで準備してきたことを信じてやるということが何より大切だと感じました。来年度、試験を受ける皆さんには、小論文は先生方の指導を受けて対策を重ねれば、誰でも本番に対応できると思います。周りからのプレッシャーに負けず頑張ってくださいと伝えたいです。
- 教職教養は、まあできたと思っています。油断して勉強していないところが出たので「もったいないことをした！」と少し後悔をしました。国語の専門教養では、古典が今一つだったので、もっと勉強しておけばよかったと思いました。
- 教員採用試験を終えて感じたことは、様々なパターンに対応できるような準備が一番大切だ、ということです。何より最後は、「自分ならできる！」と自分をやる気にさせることが大事だと思います。
- とにかく周囲の雰囲気にならないう、集中して問題に取り組むことを意識しました。筆記試験は、冷静に記憶を辿って問題を解きました。専門教養は、時間が足りなくて本当に危なかったです。討議(集団面接)では、本番までに METTS で沢山、練習の場をつくっていただけたので、自信をもって臨むことができました。

“エールを送る会” 教員採用試験激励会

6月 25 日の昼休み、2201 講義室にて教員採用試験受験者へ向けた「エールを送る会」が開催されました。試験本番を目前に控えた3・4年生の皆さんへの激励の場となりました。

藤井大輔教職課程センター長の挨拶に続き、中畠裕学長から、「いよいよ本番まで残り2週間が非常に大切です」「教職課程を選んだ皆さんは、大学生活の中で多くの課題に取り組んできました。その努力は、必ず将来に役立ちます」とのお話をいただきました。また、「皆さんがこれから進む中学校・高校という場は、日本の教育の根幹を担う場所です。ぜひ、教員として未来の教育を支えてほしい」との期待のこもったお言葉をいただきました。さらに体調管理の大切さにも触れられ、「最後にひとつ、合格の『おまじない』をお教えます」と、笑顔で場を和ませてくださいました。

エールを受け、学生代表の4年生大場伊織さんから、「本番に向けて全員で頑張りましょう」と力強い言葉があり、会場は大きな拍手に包まれました。受験生の皆さん、最後まで自分を信じて、「気合」で頑張ってください！



高校生“教職特別プログラム”の実施

6月15日オープンキャンパス当日、本学と教育連携協定を締結している竹台高校と浦安高校から、教職に興味・関心をもつ高校生6人が「教職特別プログラム」に参加しました。はじめにMETTSの教員から教職の魅力や教職課程科目等について説明を聞いた後、国語、英語、ホームルームの教材や資料を活用しながら、5分程度のミニ授業づくりに挑戦。昼休みの学食体験をはさみ、各自工夫にあふれたミニ授業を実演しました。どの授業もペアワークなどのやり取りがあり、教師役、生徒役それぞれの人が積極的に参加していました。

このプログラムには、日本語学科4年の仲田光志さん、英米語学科3年の大塚翼夢さん、木原悠さん、瀬能桜さん、吉田彪さんがボランティアとして参加。授業づくりのアドバイスや学食体験への案内など、高校生たちをサポートしてくれました。また、昨年度、本学を卒業して4月から現場の教員として活躍している佐藤百恵さん、布施名菜さんも参加してくれ、授業づくりのアドバイスをしてくれました。プログラムに臨んだ高校生たちからは「ミニ授業が楽しかった」「授業づくりの大変さが分かった」などの感想が寄せられました。



留学生大活躍！足立区との教育連携事業“異文化交流会”

6月26日、明海大学と足立区の教育連携協定事業の一環として、本学の留学生9人が足立区立第十中学校で、同校2年生149人と英語による異文化交流会を行いました。今回参加してくれた9人の留学生は、エジプト、オーストラリア、台湾、中国、フィリピン、ベトナム、ルーマニアの計7か国・地域の出身。教職課程センター・地域学校教育センターの金子義隆教授が企画し、遠藤哲也教授とともに引率・参加をしました。

2時間目から5時間目までの2年生を対象とした英語の授業では、クラス全体が9グループに分かれ、各グループに留学生が一人ずつ参加。予め準備してきた写真などを使って、出身国の特徴（エジプトのスープやオーストラリアのクリスマスなど）を紹介しました。その後、中学生からは「日本の給食文化」について発表がありました。各グループでは、終始活発に英語のコミュニケーションを楽しんでいました。

参加した中学生たちからは、「留学生の皆さんとお話をして、世界の文化の違いを感じました。英語はまだまだだけど、話すことは楽しかったので、これからも英語の勉強を頑張りたいです」「会話は、話すスキルと聞くスキルが両方必要なので難しかった。とてもいい経験になったので、またこのような機会がほしいです」と感想を話してくれました。

